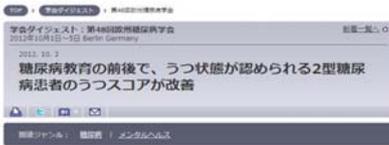
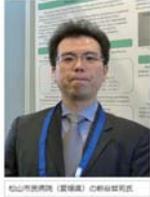




内科(糖尿病・内分泌) 医長 新谷 哲司



うつ状態が認められる2型糖尿病患者にとって、糖尿病教育には、うつ状態を和らげる効果がある。...



今回は、自分のライフワークと考えている糖尿病教育に関して、「The Diabetes Education Program Affects the Depression Score of Type 2 Diabetic Patients (糖尿病教育入院が抑うつに影響を与える)」という演題を発表してまいりました。

元々は3年前に初期研修医として在籍していた宮崎大輔先生が精神科に興味があると話していましたので、糖尿病内科での研修中に「糖尿病とうつ」についてまとめておこうとしたのが始まりでした。当院在

籍中に宮崎先生には多くの学会で発表をしていただきましたが、宮崎先生が大学病院の精神科に進んだ後にも症例を増やして検討を行ってききました。...

また、更に詳細な検討を行うため、以前在籍していた県立中央病院の先生方にも協力していただき、合計528例の糖尿病教育入院患者のデータとしてまとめたのが今回の発表になりました。

糖尿病診療を行う際には食事療法、運動療法、薬物療法のみでなく、その土台に十分な糖尿病教育がないと満足な効果は得られないと考えています。

思いがけないことに学会上で日経メディカルの取材を受け、オンライン版の学会ダイジェストに取り上げられました。発表内

容についてはこちらが詳しいので興味のある方はご覧下さい。(GoogleやYahooなどで「糖尿病教育入院 SDS」で検索するとできます。)

今回、長期の出張を許可していただきました山本院長、水上副院長や、出張中の留守を預かってくださった河本医師、眞鍋医師をはじめとする糖尿病チームスタッフには大変感謝しています。

自分たちの診療の質を上げるために、これからも臨床現場の視点からの臨床研究を行っていくことができればと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



iPS細胞の治療応用

愛媛大学医学部附属病院 薬物療法・神経内科 教授 野元 正弘



日本の医療は誰でも平等に最高の医療を受けることが可能で、世界で最も優れた制度とされる。医療を受ける立場でも医療関係者にとってもありがたい。しかし、日本で使う医療機器や治療薬は輸入されたものが多く、日本で開発されたものは少ない。

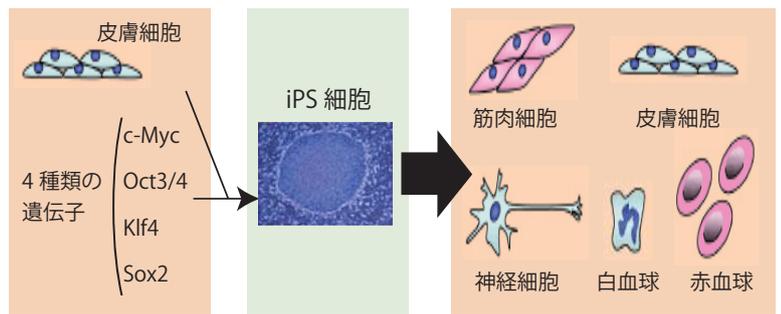
iPS細胞の研究で山中伸弥先生がノーベル賞を受賞された。今回のノーベル賞は日本が医学分野でも世界に貢献できることを証明し、今後の発展が期待できる象徴的な出来事となる。

すぐに期待されるのは、例えば筋ジス

τροφイーでは iPS 細胞から筋ジストロフィーと同様の病気を持った筋細胞が作成される。この細胞に薬を作用させて機能が正常化されることを確認できれば、その薬を治療薬の候補とできる。

2つ目は iPS 細胞で正常な臓器を作成して治療薬候補の薬を作用させることにより、副作用の有無を確認することができる。一般には健康人に服用してもらって副作用のないことを確認しているが、iPS 細胞を用いて簡単に調べることができる。

3つ目は iPS 細胞で神経細胞や心臓を作成して移植に用いることである。現在、北米では脊髄の病気に対して治験(研究治療)が開始されている。幼弱化



された細胞は異常に増殖する可能性もあるため、最初は安全性の確認が大きな目的となる。

日本が世界をリードした電気製品の製造は、そのほとんどは海外へ移転した。現在自動車工場も移動しつつあり、これからの日本が世界に貢献できる最も大きな分野は医学における研究開発である。iPS細胞の研究が世界に貢献できる大きなブースターになることを期待し貢献していきたい。